

-----  
10番 大西慶治議員  
-----

議長（中西 康雄君）

通告順6番、大西慶治議員の発言を許可します。

-----  
10番（大西 慶治君）

10番 大西慶治でございます。

私は、今議会におきましては協和中学校の大台中学校への早期統合をということ、1点に絞って、町長、または教育長の答弁を求めるものでございます。

この問題につきましては、今議会におきましても廣田議員さんからも質問が出ております。すでにその質問が終わり、答弁がなされたわけで、一部重複する部分も出てこようかと思っておりますけれども、これは大台町にとっても重大な問題であると、私は理解をいたしますので、その点よろしく答弁を求めるものであります。

新大台町となった第1回議会、平成18年3月議会から20年6月、いわゆる先の議会まで10回の議会において、私の調べで延べ16名の議員から、この質問での一般質問がありました。これは事の重大さと早急な解決を望む表れであると、そのように理解をします。

この問題につきましては、旧大台町から持ち越された大台町永年の懸案事項、また課題であります。この協和中学校問題は子どもたちの置かれている教育環境からも、早期に解決しなければならない事項であります。しかし、過去教育委員会及び行政は具体的な解決策を示せ得ず、推移してきた経緯があります。平成18年1月新大台町が誕生し、尾上町政が発足しました。町長は協和中学問題は放置される問題ではなく、1日も早く解決すべく教育委員会とも十分に連携をとり取り組むべき重要な事項と、そのように位置づけられました。

そこで、私は協和中学校の大台中学への統合問題をここに提起し、早急な統合という解決を求めるものであります。平成18年6月議会でこの問題を一般質問でさせていただきました。そのときの町長

の答弁には、新築か、改修か、統合か、この3つを上げ、中でも協和中学校の教育環境、また少子化による生徒の減少、財政等の問題から総合的に検討を加えた結果、教育委員会の方針も踏まえ、大台中学への統合が一番望ましいとする方針を提示されました。

すでに、あれから2年3ヶ月が経ったわけでございます。平成21年3月31日で大紀町との組合立が解消が現実となり、21年4月から生徒は基本的には大台町の生徒のみになります。これに対し他の議員の答弁でも、21年組合立の解消をもって統合が望ましいというふうな答弁が教育長からも町長からもあったのではないかなとそのように思います。

さらに町長は、「はっきり申し上げて新築する考えは持っていない」そのように明言をされております。20年6月議会一般質問を、さきの9月議会の前の議会ですけれども、テレビ放送でこの一般質問を見られておられた方から、このときは前田議員さんの質問であったかと思えますけれども、町長の答弁の中に21年4月に統合と思えば、今の時期、いわゆる6月の時点で決まっていないと統合は無理だと、理解を得られない現状ではよほどのことがなければ無理と答弁をされております。それを見た町民の方から、一部私になぜ統合ではないかのという話がありました。私は町長の答弁のとおり、「現時点では難しいようだ」そのように答えました。このことからこの議会の一般質問につきましては、多数の住民の方々が見ていただいております。

そこで、町立協和中学校の条例設置の話が議会に出て、協和中学校設置条例は今議会に出たわけですけれども、通告ではこの条例がいわゆる統合の時期を示唆した期限付きのものかどうかということ、伺いたいというふうに書きましたけれども、今議会に上程されております設置条例は、学校設置条例の一部改正では期限が付いておりません。今年3月の統合が無理であるならば、大台町立協和中学校というのは必要であり、条例は必要不可欠なものであると思えますけれども、私としてはもう合併の時期を明記した期限付きのものにしてほしかったなと、そのような気持ちを今も持っております。

そこで、教育論からすれば中学校教育の目的の第1は、今日の社会の進展に対するより高度な学力を身に付け、健全な人間形成に資することだと思ふ。これらの目的達成のために適正な規模の生徒数の中で、クラブ活動やホームルーム活動で体力の増進、同時に社会性、協調性、包容力を身に付け、人生を忍耐強く生き抜くための人格を養うことが、統合によってできるのではないかと思います。

子どもたちはすべて平等に教育を受ける権利があり、少人数であるがゆえにクラブ活動に支障をきたすことは大変不幸なことであると思ふ。この統合につきましては子どものことを最優先に考えたとき、その保護者をはじめ、まだ地元で理解されるはずはないと思ふ。むしろ率先して現状の打開を求め、より良い教育環境を求めるのが地元保護者であると私は確信するのであります。

この問題を私は組合立が解消し、大紀町から生徒がなくなり、生徒数が減少するから、それをメイ

ンの問題としてとらえているわけではございません。少しはあるかも知れませんが、たとえ組合立の解消がなくても子どもや、また関係者、先生方のためにも統合をして解決を見つけなければいけない、大台町懸案の大きな問題点としてとらえておるものでございます

過去におきましていろいろ話し合いをなされておりますけれども、その地域において理解が得られないとするならば、これまでの保護者、地元への説明の対応に何か問題があったのではないかと、教育委員会、理事者側の誠意、思いが地元伝わっていないのではないかと、そのための行動が伴っていたのかどうか、今一度反省もし検討してみることも必要であろうかと思っております。

私はこの問題に教育委員会、大台町が理解を得るために行ってきたという話し合い、保護者、地元、区民等、また懇談会などでの話し合いが過去どのように進められてきたのか、その内容、またその中で出された意見、そして要望は何であったのか、またその意見、要望に教育委員会、町はどのように答えたのか、ここですべてをありのままに、ひとつお知らせを願いたいと思っております。そのことをひとつ時系列的経過とともに、それぞれの立場から求めるものでございます。

ここで一回、本来は答弁はいただきたいんですけども、3回しかできませんので、ちょっと意味が変わりますけども続けます。

私はここで町長に申し上げたい。今こそ真に子どものことを思うなら、協和中学校の大台中学への統合という決断をする。それが町長の教育の公平性、真に子どものことを思う町長の仕事ではないでしょうか。それがまた大台町の教育の充実を掲げた町長の公約の実行であり、町長としての役割ではないですか。不退転の強い気持ちがなくは前に進みません。この問題は子どもたちの置かれている教育環境からして、大台中学への統合が一番望ましいとする教育委員会の方針、また町長の方針、多くの町民の意向は生かされないのは何よりも子どもたちにとって不幸であり、また広く大台町民にとっても不幸なことであると思っております。

町長は、平成19年3月議会での町政方針の中でこの問題に触れ、地域住民との話し合いを進め関係機関との連携のもと、大台中学との統合に向け努力するとあります。また、今年の3月議会での施政方針の中にも、協和中学につきましては大紀町教育委員会及び大台町教育委員会の基本方針を受けて、平成20年度末をもって組合立解消予定しておりますが、当面の生徒の安全を確保するため、校舎の耐震調査の結果を受けて、平成19年度に耐震工事を実施をしたものの、生徒数の生徒の減少、施設の老朽化は解消することはできません。1日も早くより良い環境のもとで教育を受けられるよう、引き続き保護者や地域住民の皆さまとの話し合いを積極的に進め、関係機関との連携のもと統合に向けて努力をしてまいりますと、この施政方針にはございます。

この施政方針に対して、私は是とした議員でございます。この問題について特に他の議員からも異

論はなかったように思います。今議会において統合に向けた方針の早期実現に向けての施策を明示すべきである。

以上、1回目答弁を求めます。

-----

議長（中西 康雄君）

尾上町長。

-----

町長（尾上 武義君）

それでは協和中学校の大台中学校への早期統合とのご質問に、お答えをいたします。

平成18年11月28日に協和中学校の今後のあり方についての教育委員会基本方針であります、組合立が解消した時点、いわゆる平成21年3月で統合するが望ましいとの方針を打ち出し、両町教育委員会で連携をとりながら日進地域の住民の方々、小中学及び保育所保護者の方々にご理解を得られるよう懇談会を進めてまいりましたが、組合立解消につきましては大紀町との整合を図りつつ、平成21年3月31日をもって解消することとし、今議会に、当該議案を提出させていただきました。

このことにつきましても、さきの6月議会で21年4月の統合は無理な状況であり、9月議会において町立協和中学校としての条例改正をお願いする旨、答弁をいたしました。

その後、テレビを見ておりました町民の数人の方々から、21年4月に統合が実現するものと、地元を含む多くの町民の皆さんが思っていただけに、このような方針転換が生じたことに、町及び教育委員会は、大台町の未来を託す子どもたちの教育をどのようにとらまえているのか、もっと子どもを思う考えや行動に責任ある対応を望むという言葉とともに、これまでの協議手法に甘さがあったのではないかということなど、大きな反響を呼びつつ、私自身が鋭い批判やお叱りを受けることとなりました。大変申し訳ないことだと思っているところでございます。

しかし、この組合立が解消後、即統合は現在の進捗状況を踏まえる中で、時間的にも大変難しいと判断をいたしましたところでございますし、そのうえで、今回町立協和中学校設置条例も提案をさせていただいておりますが、統合の時期については明示をいたしておりません。

協和中学校の統合問題については、その必要性について議会で何度か答弁をさせていただいております。

すように、現在の核家族化による生徒数の減少、また、これから高校大学と進み、社会に出て行く中で、今のうちに多くの仲間をつくり、人格の形成に資する機会をつくっていくことも非常に大切なことで、そのことが子どもの将来にとっても大事なことでありと確信をいたしております。

また、校舎も耐震補強工事はしたものの老朽化には変わりはありませんし、雨漏りや建具のたてつけが悪く、窓のゆがみが生じるなど悪い施設環境でもあるため、一刻も早く良好な環境の中で、勉学に励むことができるようにしていく責務があると考えております

昨日の廣田議員にも答弁しましたとおり、子どもたちの将来を考えた教育環境の整備については、保護者や地域住民の皆さんのご理解が得られるものと確信し、今一度話し合いを進めてまいります。地域の皆さんには近い時期にご決断をいただかなければならないと考えているところであります。

また、先月からの町政懇談会におきましても、三瀬谷地域との協議もできるような体制づくりも必要ではないかという話もございましたし、ある地域では統合を肯定する意向が出されたりしております。また若い保護者からも早期に統合を望む声も聞いているところでございますので、早期の解決に向けて最大の努力を傾注いたしたいと考えているところでございます。今後ともご理解を賜りたいというふうに思います。

なお、時系列的な経緯と対応につきましては、教育長より答弁をいたさせますので、よろしく願いをいたしたいと思っております。

-----

議長（中西 康雄君）

谷口教育長。

-----

教育長（谷口 忠夫君）

引き続きまして、時系列的な経緯と対応についてのご質問にお答えをいたします。

平成18年3月、6月の大台町定例議会において、協和中学校舎の老朽化問題の対応についての一般質問があり、生徒の安全を確保するため早急な解決が必要との意見が出され、町長、教育委員会ではできる限り速やかに生徒の置かれた状況を改善し、安全・安心な教育環境を整えるための努力をすると答弁をいたしました。

さらに、町長は、耐震補強工事、改築、統合という3つの選択肢のうち、生徒の安全確保、少子化進展、町財政の状況等を統合的に考慮し、保護者、住民の皆さんのコンセンサスを得ることが必要ですが、町として統合という方法を提案させていただくことが望ましいと答弁いたしました。

これを受けまして、教育委員会は、大紀町教育委員会と話し合い、今後両町で連絡を密にし、情報の共有を図りながら、問題解決に向けて進めることを確認し、平成18年7月6日、大台町教育委員会を開催し現時点での協和中学校の今後のあり方について協議を行い、教育方針として生徒の安全と教育環境づくりに努めることとし、校舎の耐震対策を両町で協議していくことと、協和中学校問題の結論を出すため、まず保護者、住民の皆さんの考えを把握する旨の方針を確認しました。

その後、協和中学校PTAの役員と事前協議を行い、早急な解決へ向けての協力をしていただくことについてご理解を得ましたので、9月から10月にかけて協和中学校の学年別懇談会、日進小学校の学年別懇談会及び日進保育所保護者の皆さんと懇談会を実施いたしました。この懇談会の様子ですが、協和中学校1年生の保護者会では、統合を含め保護者の皆さんの考えを聞かせていただきました。懇談は、さまざまな意見をいただきまして、改築存続という声が多く聞かれましたが、保護者から次のような意見がございました。

- ・10年後にこれだけ生徒数が減少することがわかっていて、学校を建替えて存続することは無理だろう。

- ・自分たちは巡り合わせだと思う、どこかで線引きがある、学校というのはある程度の人数が必要ではないか。

- ・10年前はおおかたの人が反対した、時代が進むと若い人の中には大きな学校の方が良いという方も見えるなどの意見が聞かれまして、比較的和やかな雰囲気の中で懇談をしていただきました。

このような中、翌日の21日に協和中学校について大台町長、大紀町教育長の発言が中日新聞に報道されまして、これを読まれた保護者の皆さんは、統合はすでに行政が決めているのではないかと話し合いと言っているのになぜこうなるのかと反発を招き、以後の懇談会では改築存続の声一色となり、その後の11月27日の協和中学校、日進小学校PTAによる要望書の提出につながったと考えております。

この要望書では、協和中学校耐震対策の実施と協和中学校の存続を望む声が多数を占め、今後、地域を含めての真のコンセンサスを持っていただきたいとの要望と、協和中学校生徒、保護者のアンケート調査の結果、存続希望が生徒93%、保護者80%の結果報告もいただきました。

こうした要望書もいただきましたが、11月28日教育委員会を開催し、協議をした結果、教育委員会の追加方針として、協和中学校は組合が解消した時点、平成21年3月で統合することが望ましい。

また、町内小中学校についても並行して今後のあり方を検討する。組合立が存続していく場合、平成28年3月を目途とする方針を確認いたしました。

12月11日 協和中学校、日進小学校へ要望書に対する回答をいたしました。回答内容は、安全なランクまで引き上げた耐震補強の早期実現については、教育委員会基本方針にあるとおり、第一に生徒の生命の安全を考えることから、平成19年度早期に耐震補強工事ができるよう大紀町とも整合性を図りつつ計画いたします。一方、統廃合については、生徒にとって最善の教育環境となることを第一義に話し合いを進めていく考えでありますとの回答をいたしました。

12月11日から20日 日進地区住民懇談会を実施いたしました。この懇談会は地域住民の皆さんとは最初の懇談会でございます。町長も出席し、大台町の行政改革及び財政施策面からの説明をいたしました。

一方、私からは、耐震工事はするものの校舎の老朽化、機能の劣化や少子化による生徒の減少など、教育的な見地から説明をさせていただきました。状況は、存続、統合反対の声が大きく、主な意見としては中学校がなくなると日進地区に若者が定住しなくなり、地域の発展に大きな支障をきたす。

過去に統合について話し合った経緯の中で、存続の話し合いや統合中学校の敷地の問題などに対して行政不信も残っているなど、比較的年輩の方の意見が多く、若い方や保護者などの発言が少なく、こちらから問いかけても、統合についてはここでは発言しないと言うようなことであり、なかなか確信に触れる懇談はできませんでした。

しかしながら、区によりましてはこの統合については以前から賛成を表明しているという区もございました。その後、たびたび保護者の方との懇談を申し入れましたが、統合ありきの教育委員会の方針では懇談はできないとの返答がありました。

また、平成19年7月から8月に協和中学校、日進小学校の新PTA役員の方と懇談会を持ち、教育委員会として町内中学校の生徒数、職員数、登下校の時間、クラブ活動の状況、スクールバス運行計画及び統合の意義等の説明を行い、早急に保護者の皆さんと懇談会を開きたい旨の依頼をしました。結果、協和中学校につきましては、統合ありきの懇談会は開催できないとの回答であり、日進小学校については、平成20年1月24日保護者の懇談会を実施いたしました。

内容は、役員会での資料を基に説明をしました。その中で保護者の意見としまして、少人数で頑張っている一人ひとりを大事に、統合は地域のためになるのか、地域の方の声に耳を傾けてほしい。中学校は地域の核であり、金銭で買えない価値がある。地域に学校がないと住居も考えなければならない。現在ある、3つの中学校地域の人口等を発展させる方向で考えてほしい。

以前は、80%が存続であったが現在は少し変わってきている。1年目の生徒が困らないような状況

にしてほしい。平成 21 年 4 月は生徒数も減少をしていないのにあまり早すぎるのではないかと、生徒数が減少した時点で在校生保護者と相談してほしい。

教職員の少ない、施設の悪い悪いで教育は決まらないと思うが現状の学校を見て考えてほしい。将来は統合をしなければならない予感はあるが、カリキュラム等のすりあわせを考えると、統合の時期は早いのではないかと、もっと子供たちの交流を深めてから時期を決めてほしい。

現時点では統合の時期が打ち出されている以上、協議の組織をつくっても統合を早く進める話ばかりになる。教育委員会の平成 21 年 4 月の統合方針を取り下げて、ゼロからのスタートであれば代表者会議もできる。という意見がございました。

その後、平成 20 年 4 月 17 日から 27 日までの間、区別住民懇談会を実施し、今までの懇談会の経過報告と大紀町の生徒の動向及び組合立解消のことを説明し、その後、懇談をいたしました。各区域によって意見に温度差があり、通学距離、通学方法、これまでの経緯等で統合への理解がある程度得られているように感じた地区もありました。しかし、日進地区から中学校がなくなることで地域の過疎化や発展性の疎外感を危惧する意見の声が大きく、なかなか統合に理解が得られない状況でありました。

また、7 月 31 日 日進地区住民懇談会の結果を踏まえ、総括として区長さんと懇談会を実施いたしました。その中の意見として、町当局、教育委員会は、地域住民の意向を考えていない。存続という意向を考慮していないし、また、地域住民の意見を聞くという姿勢があるのですか。

公平で平等な教育を受ける権利があるはずなのに、このような状態に永年放置してきたのは行政に責任がある。統合ありきで、いくら協議をしても平行線じゃないですか。懇談会では、反対の意見が圧倒的に多いが、賛成の意見もかなりあり、いつまで議論をしても同じで、最終判断は町が判断するのか、投票ぐらいしたらどうですか。

保護者だけに話す問題じゃないです。保護者は 3 年間学ぶだけに、町民の皆さんに負担をかけるのも間違った話なので、保護者会を重視してもらうのは困る。などの意見がありました。

私は、地域の一部の方から、子供が学校へ行くころには、この問題を解決しておいてほしいという意見もいただいておりますことや、現時点では、平成 18 年年 9 月の懇談会からかなり考え方も変わってきているように感じております。

このような中で、21 年 4 月の統合は誠に残念でございますが、見送らせていただき、今後、地域の方々すべての人に納得していただくということは不可能でございますので、しかる時期が来ましたら、決断も必要になるかと思います。早期統合を目指し、今一度住民や保護者の方々と話し合いを進めていきたいと考えております。

また、この9月4日教育委員会を開催し、平成21年4月の統合については、時間的に困難なことから、基本方針を「現在の状況を踏まえ、協和中学校に関しては統合という基本方針は変わらないが、今後、早期統合の実現をめざし地域住民の皆さんと話し合いを進めながらご理解を得られるよう努力する」旨を確認いたしましたので、ご理解をお願いし答弁とさせていただきます。

-----

議長（中西 康雄君）

大西議員。

-----

10番（大西 慶治君）

町長及び教育長のほうから答弁をいただきました。その中で時系列にということで、私もしっかりとしたメモは取れなかったわけでございますけれども、地域地域によっては温度差がある。また個人の意見にも温度差があるように伺いました。

また、この協和中学校のPTAのほうから要望書が出されたというふうなことで、その要望書の中に協和中学校PTAの総意として、11月3日開催のPTA臨時総会に議決され、本問題に対する要望書を提出させていただくことになりましたということで、PTAの総意として出されたという要望書でございます。

その要望書でございますけれども、その要望書の中の統合問題、これ要望書のほうなんですけども、統合問題につきましては財政的な問題はあろうかと思いますが、日進地区、黒坂、野原地区の将来を考えるとともに、教育的視点におけるメリット、デメリット等の提示を行い、十分な話し合いを行っていただきますようお願いしますと、これはPTAの総意として出ておるわけでございますけれども、今、教育長言われました日進地区の懇談会の中で、統合ありきでは話すことはない、統合という基本方針を取り下げたうえで、話し合おうと言われたとありますけれども、この要望書の中には統合ということも含めて、統合あるのかないのか、メリット、デメリットも含めて話し合いをしようやないかというふうな意味合いかと思えます。

この時点では、まだ組合立の解消というものがわかっておりましたけども、はっきり決定はされておらなかったわけでございますけれども、そういった中で、黒坂、野原につきましては、21年から昨

日の話では大台町に住民票を移してというような話もありましたけれども、基本的には大紀町のほうに行かれる、大宮中学校のほうに行かれるのではないかなと思います。

また、この要望書につきましてのその返答につきましても、さきほど教育長のほうからこういうことを答弁したんだというふうなことをいただきました。しかし、この要望書の中で話し合いをしようやと、そういうことを含めて話し合いをしようやということと、そんなその統合ありきでは話することはないということに、ちょっと違うのではないかなというふうに、私は思うんですけれども、教育長はこの点についてどう思われるのか、ちょっとお伺いをしたいと思います。

そういうわけで、とりあえず耐震工事というものは終わりました。しかし、校舎そのものはこれは昭和24年11月1日、大台町新田712番地に開校したと言いますから、すでに59年が経過をしております。耐震工事がなされたとは言え、老朽化は避けられず、昨日の山本議員さんの答弁の中でも、耐震工事において震度6までは大丈夫なような設計で工事がなされたと、この地域の東南海とか、南海とかいう地震は震度が6弱と想定されているので大丈夫なのではないかなというふうな答弁でございましたけれども、今言われましたように、雨漏りもあるというふうなことが今話にありましたけれども、そういうことは老朽化の中で子どもたちのその教育に影響を及ぼすことであります。

私はですね、そういうようなことから、やはり本当に子どものことを思うのならば、ここでひとつ地域の方々に教育委員会、または理事者側が真剣にひとつ話し合いを持っていただきましてですね、階段を上がっていただきたい。何回行っても階段を一段上がったと思うて次へ行ったら、また一段からというんでは、これ話が進まないと思うんです。是非ですね、教育委員会はこのことについてしっかりと頑張ってくださいと思いますし、教育委員会が主体としてこの問題を解決するものであろうと、私は思いますけれども、行政側としてもですね、この問題の1日も早い解決のために、大変忙しい町長さんは一番の責任者としてやってもらうのはもちろんでございますけれども、このことはひとつですね、大台町には副町長さんもおられることなので、行政側としてもですね特命的な立場で、この件に携わっていただくことをひとつ望むものでございます。答弁を求めます。

-----

議長（中西 康雄君）

尾上町長。

-----

町長（尾上 武義君）

これまでもですね、時系列でその対応、様子について答弁をさせていただきました。真剣な対応というようなことでもございます。当然、これまでも真剣に対応してやってきたつもりでもございますが、さらに努力を重ねていかならんと思っているところであります。

また、副町長をですね特命的に専任制みたいなのをししてやったらどうかというようなことでもございますが、これ当然、私のほうの責務でもございますし、副町長としても対応していかなあかんというようなことでもございますので、専任とか特命とかいうふうな形にはつけられませんが、当然、副町長とも対応を行っていかならん、そういう立場でしっかりと重点的にですね、対応していくと、こういうことにしていきたいと思えますんで、その点をご理解いただきたいというふうに思います。

-----

議長（中西 康雄君）

谷口教育長。

-----

教育長（谷口 忠夫君）

さきほどご質問のございました要望書の件でございますけども、確かに平成 18 年 11 月 27 日に要望書いただきました中にはですね、教育視点におけるメリット、デメリット等の提示を願い、十分な話し合いを行っていただきたいというようなことでもございました。

私どもですね、このことで感じておりますのは、話し合いをということでもありますけども、もうその基本的にはですね、もう改築、存続というのが非常に強うございまして、もう話し合いと言いますのも存続、改築の話し合いというふうな状況でございました。したがって、そういったことが前提の話し合いでございますので、なかなかその統合の話が進展しないというようなことでもございました。

そしてその後ですね、統合ありきでは話し合いにはつかないということも言われた方もあったんですけども、それは年度が変わりまして、新しい P T A の役員さん方々になりました時点でですね、そういうことで多少その年度が変わるといふこと、人も変わりましたというようなことで、考え方も

少し違いがあったんではないかというふうには思っております。そういうことでございます。

議長（中西 康雄君）

大西議員。

10番（大西 慶治君）

3度目が経ちました。小学生はこれはその生徒というのと違って、児童というのですね。中学生、高校生は生徒、そして大学生のことを学生ということだそうです。昨日の総務教育民生常任委員会の報告の中でも児童と、給食の生徒というふうに分けておりました。

そういう中で、中学校とは小学校とは違って、小学校では1人の先生がすべての教科を教えるというのが原則でございますけれども、中学校はそれぞれの数学とか国語とか、いろいろのその専門の免許を持った先生が教えるわけございまして、昨日の町長の答弁にもありましたように、小学生は地域で、中学生は町で、高校は県で、大学は国で主体を持ってそれぞれの役割をとというふうな話があったように思います。メモですので、少し間違ってしまったらごめんなさい。

その意味では、大台町は中学生に責任を持たなくてはならない。その場しのぎのことでは前には進まない。双方が、いわゆる日進地区の方々、また行政、教育委員会が一貫性を持った統合への話し合いというものが必要なんです。過去においてもいろいろとそういうことについてはしてもらっております。いろいろ教育長の話の中にも努力をしていただいております。今の時系列の話の中でも出てまいりました。

しかし、本当の理解を得られていないというのも事実でございますし、教育長の話の中でいつか決断しなければならないだろうと、すべての人に賛成を得るといことはこれは無理なんではないかというふうなことでございますけれども、そういったことも含めてですね、とは言うものの、やはり住民の方々、大台町全体の住民の方々、また特にこれに関係しておられる日進地区の方々の、やはりああそうか、そんなら仕方ないのうということまでですね、ひとつ真剣なその努力をしていただく必要があるんじゃないかなと、私は思います。

この統合ということにつきましては、非常に難しい問題がございます。この組合立の相手方の大紀

町さんも、この協和中学以外にもその錦、柏崎、大内山の学校統合について、いろいろと進んでおります。昨日の廣田議員さんの話の中にも出てまいりましたけれども、大内山小学校と柏崎小学校が統合して、これは大紀小学校として現在の大内山小学校を利用すると、それでまた錦には小学校を1つ残す。錦中学校と大内山中学校と柏崎中学校が統合して、大紀中学校として現在の柏崎小学校を利用するというふうなことで、これは平成21年度より実施するというので、今、工事が真っ盛りでございます。

すでにご存じのように、阿曾小学校と滝原小学校が統合して大宮小学校になっております。七保については第一、第二、第三の小学校が統合して、七保小学校となっております、阿曾中学校と滝原中学校が統合して大宮中学校というふうに、学校問題については隣の大紀さんでは、ほぼこれで解決したんかなというところにきております。

そこで、私は自分の勉強のためにですね、この8月の5日に錦、柏崎、大内山、そして大紀の大内山にあります教育委員会にお邪魔してきまして、それぞれのお話を伺ってまいりました。あくまでも大紀町のことでありまして、大台町にそれが通じるんだ、準じるんだということでないということは私も理解したうえで、勉強をさせてもらってまいりました。

錦では生徒数の減少で多感な時期の子どもにできるだけ多くの同じ町の子どもたちと交わらせ、郷土愛を育て切磋琢磨させることが大事、通学には少し遠くなるが3年間のこと 直に高校になれば伊勢方面などに行かなくてはならない。気後れしない子どもに育てるには、それには統合というものは良いことだという意見を伺ってまいりました。

大内山におきましては、小学校の生徒数が減少し、複式学級にしなければならなくなる。保育園から中学校卒業まで変わることなく同じメンバーのままで、これは家族的で良い面もたくさんあるが、中学生、高校生と社会に馴染んでいくには不安が大きい、統合しているんな人とのかわりの中で勉強させたい。

また、柏崎では旧紀勢町は錦地区、そして柏崎地区と同じ町でありながら、山と川ということで環境が違い、交わりがなかったそうでございます。そのために紀勢町としての郷土愛、文化に違和感があった。これは不幸なことで、これを解消するには小学校、中学校ともに同じ学校で学ぶことは大切なことということで、それよりもPTAから始まって単に旧錦、柏崎ではなく、大紀町としての多くの方々の交わりができると思う。統合は良いことばかりではないということは理解するが、長い目で見れば子どもたちのためには良いことではないかというような意見を聞いてまいりました。

大紀町の教育委員会では、小学校では複式学級の解消、中学校では適正規模学級での学力向上やクラブ活動などの学校生活の活性化等を目的としております。

教育長は廣田議員の答弁の中でも、大紀町と大台町のその思いの違いをこれを述べられておりましたが、これは私はその全部回ったわけではなく、少数で、同じ人おもう一回会ってこいといったら全然知らん人と会ってきましたので会えませんけれども、そういうふうな意見がありました。これもいろいろその地域地域の事情があることでございます。我が大台町の協和中学校問題に通じるかと言え、それぞれの事情や、また大台町と大台町としての歴史があることでございますけれども、私なりに理解したことは、まず皆さんは同じ町の文化の共有、交流、前進、そして何が一番大切か、それは第一にも第二にも第三にも子どものためです。3年間は長いか短いかはいろいろですが、中学時代は人生でも一番大切なときだと思います。将来、できるだけ大きく羽ばたいてもらわなくてはなりません。

そのためには、できるだけ大勢の中で人間として基礎勉強を統合した大台中学で切磋琢磨し、歩んでもらい、将来の大台町、また三重県を、そして日本を担う人材の宝庫として大台中学があることを期待するものでございます。

また、1つの提案としまして、同じ入学したところで卒業したいんだというならば、新1年生のほうから順次大台中学校のほうへ来ていただくと、来年、再来年からでもそういう方法も1つ交えた中で、これからの話し合いというものを続けていただきたいなと思います。

もう次の質問がございませんので、再度そういった統合に向けた決意を込めた答弁を期待し、私の質問を終わらせていただきます。

-----

議長（中西 康雄君）

谷口教育長。

-----

教育長（谷口 忠夫君）

大西議員に熱い思いで統合をとということで述べていただきました。私もですね、全く同感でございまして、もうそのとおりでございます。もう私も廣田議員の答弁に述べさせていただきましたとおりですね、もう本当に同感でございまして、中学校教育というのは本当に人生形成の中で、特に小中学校の中で中学校教育というのは、人生形成するための大変重要な時期でございます。

したがいまして、基礎、基本というようなところをしっかりと学んでいただきですね、それにはやはりある程度の人数もこれは必要でございます。今の大台中学校、あるいは町内の中学校3校見ましてもですね、ひとつの現象で、非常に小規模になってきております。そういうことでこれ学校統合しましてですね、ある程度の人数を確保しながら、その中で子どもたちを切磋琢磨しながら育てるということは非常に重要なことであると、こういうふうに思っております。

さきほども答弁させていただきましたが、この統合につきましてはかなり意見も平成18年度当初に取り組みましたときよりもですね、皆さんの考え方も大変変わってきているというふうに私は感じております。また、近いうちにですね、保護者の皆さん方と懇談を持たせていただく予定でありますけれども、そうした中でですね、より一層理解を得ましてですね、今一度これまでの取り組みを反省しながら取り組ませていただいて、早期に統合に向けて取り組ませていただきますので、ご理解いただきたいというふうに思います。

さきほどの話の中に出てきました、その新1年生から段階的に統合したらというようなお話もございました。その答弁が漏れましたので、述べさせていただきます。21年度から全統が無理なら、新1年生から大台中学校へ入学していったらどうかというようなことでもございましたんですけども、私どもは義務教育でありますので、中学校の統合は地域の学校の生徒全員が、一緒に同じ学校で学生生活を過ごすことが最善であると思っております。その地域で保育所、小学校と育った子どもを中学校へ段階的に統合進めていくという考えは、教育委員会としては考えておりません。

このことは以前地域の懇談会の話の中でもありました。教育委員会の見解として段階的、または希望者等の統合は考えていないというふうに回答をさせていただいておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

-----

議長（中西 康雄君）

尾上町長。

-----

町長（尾上 武義君）

大西議員の熱い思いを聞かせていただきまして、感銘をしながら聞かせていただきました。全く同

じ思いでございまして、本当にその地域のこともさることながらですね、やはり子どもの将来、そしてまたその貴重な3年間ですね、この素晴らしい時期なんですよ。いい時期なんですよ。やはり人が努力する姿や粘り強さやら人に優しいやら、協調性があるとか、いろんな可能性を持った人たち、子どもがたくさん寄ってきてですね、それをいろんなことを学びとっていく、それが人格形成にもつながっていく、お互いそういういいところをね身に付けていくという、そしてまたその錦の皆さんもおっしゃっておったように、外へ出たときに気後れせんようにというような言葉もあったようですが、そういったようなことも非常に大事なことです。

そういう社会性とか、そういったようことも身に付けていくというふうなことも大事なことです。それが姿形になって現われてこないという部分もございますけども、非常に大事な人間形成をしていくうえにおいて大事なことでもあろうと思います。そういうことで近いうちにですね、地域の皆さんにもご決断いただくような形で進めさせていただきやならんと、こう思っております。最善の努力を傾注してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたしたいと思います。

-----

議長（中西 康雄君）

大西議員の一般質問が終了しました。

-----

議長（中西 康雄君）

しばらくを休憩いたします。

再開は2時05分といたします。

（午後 1時 53分）

-----

議長（中西 康雄君）

定刻となりましたので、休憩前に引き続き一般質問を再開をいたします。

(午後 2時 05分)